

## 研究計画概要

助成年度・種別	2022年度 一般研究助成
研究代表者	荒井 崇史
所属	東北大学
研究テーマ	性差別的態度を起因とする親密関係における暴力の発生メカニズムの解明－効果的な予防的介入・治療的介入のための実証的検討－
研究計画概要	<p>性差別的態度は親密な関係における暴力(Intimate Partner Violence; IPV)のリスク要因とされ、性差別的態度を持つ者は日常的にパートナーに攻撃的に振舞う傾向があるとされている。それでは、なぜ性差別的態度は日常的なIPVを生み出すのだろうか。この問いに対して、近年、性差別的態度を持つ者の親密な関係での「自己の勢力の大きさ」に関する認知の歪みが原因ではないかという指摘がある。</p> <p>そこで本研究は、カップルの双方に調査を行い、そこで得られた一対のデータを分析することで、性差別的態度が勢力感の歪みを介して、親密な関係における暴力に至るまでの心理的メカニズムを解明することを第一の目的とした。これに加えて、親密な関係において勢力感に影響を及ぼす要因を明らかにすることを第二の目的とした。</p> <p>IPVの問題を考える場合、被害者の保護や支援はもちろん、加害者を生み出さない予防的介入や加害者更生への治療的介入が不可欠である。本研究における加害者の心理プロセスに関する知見は、効果的な予防的介入や治療的介入の開発にあたり、その基盤となる科学的根拠として活用できる。</p>
選考委員からのコメント	<p>性差別的態度をもつ男性は、パートナーへの暴力傾向が高いことは以前から指摘されてきたところではあるが、なぜそうなのか、そのメカニズムは明らかではなかった。</p> <p>本研究は、性差別的態度が親密関係における「自己の勢力」の過小評価をもたらし、それが暴力の発動の契機となっているとの仮説を検証するものである。</p> <p>加害者への治療的介入プログラムを構想するうえで、重要な示唆をもたらすことが期待される研究であり、成果が期待される。</p>